

25 華岡青洲と父直道の瘍科の師・岩永一族の謎に迫る

今井 秀

今井整形外科

1. 要旨

華岡青洲は京都遊学時に京都の岩永氏に、父直道は大坂の岩永蕃玄に瘍科を学んだと云われる。蕃玄と弟の玄昌は正徳年間にともに長崎から来阪した。この浪華の岩永一族と血族である京都の岩永氏は江戸時代に蘭方を加味した瘍科医として活躍したが、意外に知る人は少ない。今回浪華の蕃玄・玄昌両家の過去帳を調査し、直道の師は二世盤玄壽跡であることを確認した。

一方青洲の師である京都の岩永氏は、当時外科で名を馳せた岩永左門か子の貞吉のいずれかで、また岩永一族の先祖は長崎在住で向井元升に学んだ岩永宗故であると思われた。

2. 浪華の蕃玄家

岩永蕃玄は、『日本医譜』に「名正徳。字蕃玄。浪華人。以外科医名高于一世。華岡青洲父瑞賢師事之。以成其業。藤木直隅亦師事之。享保中人。京師岩永氏同族也」とあり、中野操氏は「蕃玄は肥前長崎の人で、正徳年間に浪華に來り江戸堀に居を構え、南蛮流外科を以て開業し名声を博した。享保14年に没し齋藤町の浄光寺に葬ったと伝えるが、墓石は現在失われて見当らない」と述べている。

その後の調査で松木明知氏は浄光寺が吹田市寿町に移転したことを突き止め、過去簿の調査で二世盤玄壽跡が青洲父直道の師であることを明らかにした。また寛政末頃にも蕃玄の名に負う医家がいるので、過去簿を再調査したが岩永姓の医家はなく、三世盤玄氏弟の早世で嫡系の蕃玄家は途絶えたと考えられた。

3. 浪華の玄昌家

蕃玄の弟岩永玄昌は大坂土佐堀で開業した。その後隆恭、榮安、文恭、文楨、文卿と続いた阿蘭陀外科医の名家である。『阿蘭陀流系譜』によれば、隆恭は出島蘭館医ダニエル・ブッシュ伝来の植林流阿蘭陀外科医で、八尾の野口友山に師事した。子の文恭は華岡鹿城と共に「大阪外科医の双璧」と称され、娘婿の文楨は木村兼葭堂と並ぶ博学者であった。

4. 京都の岩永氏

中川修亭著の『麻薬考』に「岩切*（岩永）曰中神氏用此方」は“其ノ最功者ハ岩長是レ即チ花岡氏ノ師ナリ”と、青洲の師は岩永氏であると修亭は語っている。*頭注に“切ノ字ハ恐ラク長カ永ノ字”と森約之の追記がある。

『日本医譜』岩永左門の条に「姓菅原。以外科為専門。鳴于一世。京師人。其子貞吉。名胤徳。字耕道。号穆斎。継業脩外科。歿後無嗣」とあり、子の貞吉は文政5(1822)年版『平安人物志』「医家」に載る名医であった。京都で岩永姓の医家はこの二人のみだが、確定には至らなかった。今後の解明が望まれる。

5. 長崎の先祖

『長崎先民伝』に「岩永知新、字ハ宗故、何求斎ト号ス。肥前唐津ノ人。少シテ崎ニ來タリ、向井玄升ノ門ニ遊ブ。医ヲ学ビ、旁ネク通ジ、郷先生ヲ以テ諸生ヲ教授シ、門風良ヤ盛ンナリ。弟子中名世ナル者、重定・玄岱等数人有ル也。知新晩年家富ム。其ノ故業ヲ棄テ毎ニ山水ノ間ニ遊ビ樂シミト為ス。又茶ヲ嗜ム。独リ清福ヲ擅ニシ、細故ヲ譲ラズ。豪逸ニ終ハル」とあり、宗故は長崎で向井元升に学んだ医家で教育者としても尊敬され、また晩年は花鳥風月を楽しみ、茶を嗜む文化人であった。

宗故は1674年出島蘭館医テン・ライネが来日した際、医術に関する160の問答をまとめて『阿蘭陀薬方雑聚』を著し、また1695年堺の隠岐宗南が長崎に滞在した際茶の湯の所作をまとめて書いた『茶湯秘書』を筆写した。

長崎で岩永姓の医家は宗故のみで、宗故が岩永一族の先祖と思われた。

6. おわりに

浪華の岩永一族の過去帳を調査し系譜を明らかにした。京阪で阿蘭陀外科を広めた岩永一族は、もっと広く知られてもよいと思われた。